

平成29年度 日本電子専門学校

# 第二回学校関係者評価委員会

## 中間報告会報告書

評価対象期間 自：平成29年 4月 1日  
至：平成29年10月31日

平成29年11月

# 学校関係者評価委員会

# 目 次

I	学校関係者評価の概要と実施状況	1
	1. 学校関係者評価の目的と基本方針	1
	2. 学校関係者評価委員名簿	2
	3. 学校関係者評価委員会の実施状況	4
	4. 平成29年度中間報告の実施と評価の仕方	5
II	学校関係者評価報告書の見方	5
III	学校関係者評価委員会 評価結果報告書	6
	総評	6
	平成29年度前期の取組（中間報告）に対する評価と意見	8
	○教育重点項目	
	1. NEXT10（日本電子専門学校の更なる伸張）の確実な実施	8
	1) 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」	
	2) アクティブラーニングをサポートするラーニングcommonsの充実	
	3) 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実	
	2. 教育力の向上	12
	1) オリジナル教材開発	
	2) 目標資格の取得率向上	
	3. 第三者評価への対応	15
IV	学校関係者評価委員会議事録	19
	○全体自由意見	22
V	付属添付資料 自己評価報告書（説明資料）	

# I 学校関係者評価の概要と実施状況

## 1. 学校関係者評価の目的と基本方針

### 1) 目的

日本電子専門学校における学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

- ①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・職能団体・専門分野の関係団体、中学校・高等学校等、保護者・地域住民、所轄庁・自治体の関係部局、在学生など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

### 2) 基本方針

日本電子専門学校における学校関係者評価は、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

### 3) 委員会運営

平成年度における学校関係者評価委員会を以下のように年2回の開催とする。  
添付：自己点検評価（中間報告）

- ①第1回目(7月)に実施する委員会は、平成28(前年度)の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。  
また、平成29年に定めた、重点的に取り組むことが必要な目標・計画を発表する。
- ②第2回目(11月)に実施する委員会は、平成29年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。

## 2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として、卒業生、関係業界、職能団体、関係団体、高等学校、保護者、地域住民、在学生に委嘱した。

属性	氏名	所属	役職
企業	浅賀 央起	株式会社ぴえろ	執行役員 人事総務部 部長
	石本 則子	株式会社スタジオフェイク	代表取締役
	井沢 祐	株式会社スタジオフェイク	研究開発部 ディレクター
	内田 昌宏	株式会社ラック	常務理事 事業企画部・営業 本部 シニアコンサルタント
	川崎 紀弘	株式会社コンセント	
	舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン	PV 事業部 営業戦 略室 室長
	乗浜 誠二	株式会社ナレッジコンスタント	代表取締役
	新 和也	オートデスク株式会社	メディア&エンターテインメント セールスマネージャー
	渡辺 登	合同会社ワタナベ技研	代表社員
	佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	代表取締役 チーフセキュリティアドバイザー
職能団体	満岡 秀一	一般社団法人 Open Embedded Software Foundation	理事
	宮井 あゆみ	CG-ARTS 協会	事務局長
	中台 浩正	東京商工会議所 新宿支部	事務局長
	原 洋一	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会	理事・事務局長
	米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	研修委員会 委員
卒業生	谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	プロジェクトリーダー
	中山 秀昭	日本電子専門学校同窓会	副会長
保護者	二俣 久美		
	高橋 智子		
	藤本 香織		
	植村 美智子		
	清水 啓子		
	日比野 晴美		

高校教員等	藤浪 優	株式会社ウィザス	第二教育本部 教育運営部 ICT推進室 主任
	松下 秀房	目白研心中学校・高等学校	理事 校長
	勝間田 清一	日本大学生物資源科学部	非常勤講師
日本語学校	沼田 宏	株式会社インターカルト日本語学校	教務部長
地域住民	小澤 博太郎	百人町西町会	会長
在学生	秋永 美穂	高度コンピュータグラフィックス科	4年生
	三浦 稚子	Webデザイン科	1年生
	伊藤 史華	アニメーション科	1年生
	戸嶋 瑠奈	ネットワークセキュリティ科	1年生
	假野 紗希子	コンピュータグラフィックス科	1年生

### 3. 学校関係者評価委員会の実施状況

#### 1) 学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時 : 平成 29 年 11 月 13 日 (月) 15:00 から 17:00

場所 : 日本電子専門学校 7B22 (7 号館地下 2 階)

#### 2) 学校関係者評価委員会 進行

(1) 事務連絡 (スケジュール、配布資料確認) 15:00~15:05

(2) 出席者紹介 (評価委員、日本電子教職員)

(3) 校長挨拶

(4) 委員会開始中間報告 (舟山委員長による進行) 15:25~16:40

○平成 29 年度自己点検中間報告 (学園担当者より報告)

<教育重点項目に関する中間報告>

1. NEXT10 (日本電子専門学校の更なる伸張) の確実な実施

1) 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」

2) アクティブラーニングをサポートするラーニングコモンズの  
充実

3) 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

2. 教育力の向上

1) オリジナル教材開発

2) 目標資格の取得率向上

3. 第三者評価への対応

1) 専門学校の第三者評価の位置づけについて

2) (NPO) 私立専門学校等評価研究機構の第三者評価について

3) 本校の第三者評価の取り組みについて

・・・ 評価結果の判定 (評価) ・・・

○前期トピックス報告

1. 学校紹介ムービー

2. 学習成果報告

3. ボランティア活動報告

○その他の報告

(5) 全体自由意見

16:40~17:10

## 4. 平成 29 年度中間報告の実施と評価の仕方

### 1) 自己点検中間報告の実施

日本電子専門学校は、第 2 回学校関係者評価委員会の実施に先立ち、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、平成 29 年度中間(4/1～10/31)の自己点検を実施した。自己点検項目は、平成 29 年度における「教育重点項目」3 項目であった。

### 2) 中間報告の評価

学校関係者評価委員は、日本電子専門学校の説明を受け、項目ごとに前期の取り組みが「十分」または、「不十分」の 2 分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 評価記入シート」のコメント欄に記載した。

最後に、日本電子専門学校は、評価項目や学校・学科の改善に関する学校関係者委員の自由意見を聴取した。

#### 学校関係者評価 中間報告評価記入シート 例

##### 教育重点項目

重点項目1 職業実践専門課程への対応

前期の取組について

⊕

不十分

ご意見

---

---

## II 学校関係者評価報告書の見方

### 1. 自己評価結果の結果集計

学校関係者評価委員 28 名が記述した評価記入シートより、「十分」記入数、「不十分」記入数を集計しパーセント表示した。

### 2. 委員コメント

評価記入シートの委員コメント欄に、学校関係者評価委員が直接記入したコメントを項目毎にまとめた。

### 3. 全体自由意見

評価終了後、委員全体から聴取した意見をまとめた

### Ⅲ 第二回学校関係者評価委員会 評価結果報告書

#### 総評

第二回目（11月）に実施する委員会は、「平成29年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う」ことになっており、この規定に従い、日本電子専門学校平成29年度上半期中間報告会を平成29年11月13日に実施した。

今回の委員会は、前回委員から指摘のあったマンネリ感改善のため、評価の項目は3つの「教育重点項目」に絞り、新しい試みとして、「学校紹介映像」の上映、平成29年度上半期の学習成果報告（様々な競技会などの入賞実績）に多くの時間を割き、各担当者から詳細な説明があった。

「教育重点項目」の自己評価に基づく学校関係者評価については、参加者28名が学校担当者からの報告に基づき、項目ごとにその取り組みが「十分」であったか、「不十分」であったかを評価し、コメントを記載した。評価結果は以下の通りであった。

1. NEXT10（日本電子専門学校の更なる伸張）の確実な実施
  - 1) 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」（十分26、不十分2)
  - 2) アクティブラーニングをサポートするラーニングコモンズの充実（十分26、不十分2)
  - 3) 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実（十分24、不十分1、未回答3)
2. 教育力の向上
  - 1) オリジナル教材開発（十分27、不十分0、未回答1)
  - 2) 目標資格の取得率向上（十分22、不十分3、未回答3)
3. 第三者評価への対応（十分26、未回答2)

今回の評価結果では、「目標資格の取得向上」について、不十分であるとの回答が最も多く、評価委員からは、「学科によって取得率にばらつきがある」、「目標資格を再考する必要があるのでは」といった改善を求めるコメントがあった。一方、「学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実」での学生自治組織の設立への取組については、多くの委員が「期待している」とのコメントも多く、その他の項目でも多くの委員が「評価する」とコメントしており、全体的には学校の取組が十分に理解されていると感じた。

今回の新しい試みとして行った「学校紹介映像」の上映や「学修成果報告」は、（これらに多くの時間を割いたことから）「第一回目と比較すると自己評価報告の内容が薄く感じられた」とのコメントもあったが、「学生の学外での活躍や実績を詳しく知ることができて良かった」等のコメントも多く、概ね好評であった。

また、前回委員から指摘された問題点について、詳細な調査結果報告と改善内容の



説明があり、PDCA が正しく回っているとの印象を強くした。

最後の自由意見交換では、改善の提案や要望など大変有意義な意見が出されているので、今後の取り組みにぜひ活かしていただきたいと思う。

学校関係者評価委員会  
委員長 舟山 大器

# 平成 29 年度前期取組（中間報告）に対する評価と意見

平成 29 年 11 月 13 日

## 教育重点項目

### 1.NEXT10（日本電子専門学校の更なる伸張）の確実な実施

#### 1)「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」

ご意見（原文まま）

前期の取組について

十分：26名  
92.8%

不十分：2名

委員コメント

- ①アニメーション科の具体的されたポリシーを是非、拝見したいと思います。目標は文字化・視覚化することが重要だと思いますので、ネームカード等の取り組みは評価したいと思います。一般企業におけるクレドの取組を越えている感じを受けます。（浅賀）
- ②本件は電子学園本体と密接に関わる部分なので日本電子さん単体で向上できる部分は限られるのでしょうか？もう少し根幹部分での詰めが必要だと感じます。左図の“??”に入るのは建学の精神なのかそれとも“クレド”的なものなのか。企業の場合は現在“クレド”主流になっていますが、未来型の学校としては何を目指すべきなのか、真似ではなく本質的な討議が必要ではないでしょうか？公への公開（HP）をどこまで行うかも検討が必要です。（石本）
- ③ネームカードに書かれた内容をどう具体的にアクションにつなげるのか、みえませんでした。重要ななと思います。（井沢）
- ④規範、指針、ポリシーを策定・周知することは不可欠であるが重要なのは、これらに魂を込め実践し続けることだと考えます。継続した取り組みに期待します。もう少しスピード感をもった取組みを希望します。（内田）
- ⑤ネームカードスタイルは、企業でもよく利用されているがほぼ“お守り”“化しているというのが実際です。基本理念に帰るべきシチュエーション（タッチポイント）での提示という考え方が必要なのでは？（川崎）
- ⑥「教育の質の保証・向上」というのは、教育上いちばんの課題であると思われる。その中で実現の為に「3つのポリシー」は、プロセスを実現していく上では必要と思われる。（乗浜）
- ⑦2つのプロジェクトで目標に向かっているのがわかった。基本理念策定プロジェクトでは、ネームカードを活用したユニークな工夫があり、3つのポリシー策定プロジェクトでは今後のスケジュールが明確化されており、確実に実施に向かっていると思われる。（舟山）
- ⑧ネームカードは浸透させるには文字が小さいと思います。また、具体的にどういう行動が模範となるのかなどの先生方の事例を学内で共有できるといいと思います。（新）
- ⑨行動規範、行動指針を明確に伝え、意識させるために非常に良い活動だと思います。（佐々木）
- ⑩前回のご説明から進展した事が分かりませんでした。（宮井）

- ①遵守されているかどうかの具体的な check 方法を知りたいです。Google では、「G ポイント」というポイントをメンバ自身が他社に付与することで見える化しています。一定の水準より他社評価を円滑にする手段が必要と考えます。(満岡)
- ②規範は活動の基本であり、重要である。学園内での浸透活動に今後力を入れ取り組んでいただきたい。(水越)
- ③社会人基礎力を掲げている点は、(職業教育上の観点から) 高く評価できる。(米井)
- ④ネームカード、モチベーションを上げる一つの方法として良いのでは。三つのポリシーに沿った学生が育つといいですね、ぜひ進めて下さい。(勝間田)
- ⑤ネームカードは素晴らしいアイデアですね (松下)
- ⑧早く全学科のポリシーを作っていただき、学生達が卒業までの目標を立てやすくしてほしいです。(高橋)
- ⑪評価観点もポリシーとともに策定することを期待します。(サイクルを回すため)(谷)
- ⑬三つのポリシー (ディプロマ・カリキュラム・アドミッション) に基づき具体的手法 (ネームカード…) により充実した教育の質の保証・向上に役立っている (小澤)
- ⑱浸透させるという部分で、ネームプレートに記載する必要性や効果があるのか疑問に思いました。ポリシー策定は良いと思います。(三浦)
- ⑳著しい進行度が見える。更なるポリシーの具体化・設定化が期限をもって定められていてよい。(伊藤)
- ㉑小さなところから行っていっているし、ポリシーも細かくしっかりとしていると思った。(戸嶋)

## 2) アクティブラーニングをサポートするラーニングコモنزの充実

ご意見 (原文まま)

前期の取組について

十分 : 26  
92.8%

不十分 : 2

委員コメント

- ①実習室の開放、専用設備機器の開放は専門職を育てる教育機関としてはマストかと思しますので、この充実を時間帯拡大も含めて検討すべきかと考えます。また、オープンスペース、図書室の有効活用で、学科の壁・学年の壁を取り払うことができるようなしかけ作りができれば、より活性化された学園生活がおくれるのではないかと考えます。(浅賀)
- ②他校の見学や自校の利用状況の確認など、非常に活発に動かれていると感じます。未来型の施設としては、DENA さんや楽天さんのオフィスなどの見学も一見に値すると思えます。(石本)
- ③ラーニングコモنزの設置のみでは、むずかしいかなと思います。例であったような POP など、重要かと思えます。(井沢)
- ④アクティブラーニングは社会人にとっても大切なテーマであり、大切な取り組みと考えます。型から入るのは大切ですが、学生からのアンケートなども参考に空間づくりをお願いします。(内田)
- ⑤ラーニングコモنز、必要だと思えますが、大学に見習うより工学系専門学校ならではのラーニングコモنز (ラボ的な) をクリエイトすべきでは? (川崎)

- ⑥ アクティブラーニングの主たる課題をいかにそろえるかがポイントになると思われる。(MBA コース等で行われるインタラクティブな答えのないが途中の議論を重要視する学問。) これらがやっと学校に日本でも取り入れられる事は素晴らしいと思います。(乗浜)
- ⑦ 学生が能動的に学習を行う為に、ラーニングコモンズを充実させる。その場を積極的に提供しようとしている姿勢が理解できた。特に共有スペースの利用状況を定量的に調査している点は、改善提案に向けて大変良い試みだと考えられる。(舟山)
- ⑧ コモンスペースに何か最新の機材 (AI スピーカーとか) などがいつも置いてあるといいんじゃないかと思います。(新)
- ⑨ オープンスペースの目的や用途を明確にしたり、学生からの意見を取り入れるとより良い環境作りができると思います。(佐々木)
- ⑩ 具体化をたのしみにしています。(宮井)
- ⑪ 設備は十分な気がします、使い方に工夫が必要と感じました。生徒が主体的に F2F で活動が必要な課題提出を増やしたり、他学科との学び機会を増やすともっといいと思います。プロジェクタやホワイトボードを特定の場所に設置するのもいいかと。(満岡)
- ⑫ 学生が学ぶ環境をより良くしようという取組を積極的に行っていると感じた。(水越)
- ⑬ アクティブラーニングは定義も解釈も多様なため、評価がむずかしい。環境も大切な要素だが、学生が何をするかはもっと大切。(米井)
- ⑭ 日本電子は実践的な指導・学習をしているのでアクティブラーニングは効果的。ラーニングコモンズもある程度導入・設置されているのではないかと。あとはその設備を利用するソフト面を検討する必要があるだろう。(勝間田)
- ⑮ 放課後の利用が少ないのはバイト等に時間を使っているからなのか、ほかの理由があるのかを調査すると効果的に使用することができると思います。(藤浪)
- ⑯ ラーニングコモンズは大学でも設置しているところが多くなっているので、積極的に取り組まれたほうがよいでしょう。  
利用しやすい環境づくりを考える。(ICT とか飲物や食べ物が近くで手にすることができるとか。)(松下)
- ⑰ ドラマなどにも取り上げられるようになったアクティブラーニング。学校に合ったラーニングコモンズの導入を期待しています。(高橋)
- ⑱ 他の教育機関、企業の良い部分を研究し、本校で活かしていこうという姿勢が素晴らしいと思った。期待したい。(藤本)
- ⑲ そもそも専門学校がこういったことに取り組んでいないところなのかどうかを知らない、今までなかったのだとしたらとりくむのはとても良いことだと思います。(日比野)
- ⑳ 物理的な環境だけでなく SNS なども検討する価値があると存じます (谷)
- ㉑ ラーニングコモンズ (施設) の提供により、学生がより満足度が向上するかと思います。(小澤)
- ㉒ 実習室を使うことが多いので難しいかもしれないが頑張ってほしい  
図書室はどのような本があるのか知らない人もいるのでは? 学科の掲示板等にオスス

メの本を載せるなども良いかもしれない。(秋永)

②7号館の2階は昼休みにとても混雑しているので座席数が増えることを期待します。

図書室内の自習室は暗い印象があります。(三浦)

④大学等に見学し、学校の充実化に向けての行動が見られる。7号館の座席増加はありがたい。(伊藤)

⑤インターロップ、ITPro、NTT への見学、また多くの企業説明会があつて参加しやすいのでありがたい。他学科とのコミュニケーションを取りたくても使う号館が限られているため、ほかの号館へ行きづらい。実習室に関しては先生方の都合があうときでないと使えないのでもう少し使える時間が欲しい(戸嶋)

⑥休み中は実習室が短期間しか開いていなかったもので、休み以降は家で作業するようになってしまいました。(假野)

### 3) 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

ご意見(原文まま)	前期の取組について	十分:24 85.7%	不十分:1	未回答:3
-----------	-----------	----------------	-------	-------

委員コメント

①学生運動を知る世代の者としては自治会という言葉に複雑な思いがありますが、主体的に働くことが苦手で指示待ちが多い現代の学生さんには、自主的に働くことができる仕掛けを与える方法は教育の一環として有効なのではないかと考えます。(浅賀)

②具体的な成果も出ており、今後の展開が楽しみです。どんどんボトムアップの意見が出ることを期待しています。(石本)

③学生主体で動けるのはすばらしいと思います。(井沢)

④成果と評価(学生からの評価/学校からの評価/学外からの評価)が学生自身の大きなモチベーションになると思います。学校側はフォロワーとしてサポートをお願いします。(内田)

⑤学生が必要としていたものなんだなと思いました。継続していくことが重要でしょうね。(川崎)

⑥0期からスタートして、2年以上の準備期間をおき学生主体の自治組織が出来ることは素晴らしいが・・・それをもって社会人基礎力が養われるとは思えないが、工夫が必要かと思う。大学でも「社会人基礎力」は課題であり、具体的な施策がないのが実態かと思う。(乗浜)

⑦「学生自治組織の設立」、社会人基礎力を養うという試みを行おうとしていること、またその理由がよく理解できた。「学生(私たち)が主体となって、学生の交流や学校への提案、イベント運営などを行う。」素晴らしいことだと思い、ぜひ実現を!(舟山)

⑧自分達で理想の学校を作っていくのはモチベーションが上がると思います。(新)

⑨すごく良い取り組みだと思います。学生自ら考えて行動し、成果を出すことで自立した社会人へつながると思います。0期メンバーに既に自主的な行動がでているとのことで、今後益々期待します。(佐々木)

- ⑩ 早期に学生主体となった事、すばらしいです。(宮井)
- ⑪ 後輩へと活動をつなげる仕組みもあったら面白いです。課題は例年共通するモノが多いと思います。年度毎に変化が分かるようになれば、モチベも上がるかと。ぜひ、予算をしっかりとつけてあげて下さい。(満岡)
- ⑫ 他者を巻き込みながら活動する機会は、社会に出てから活躍するための大きな成長機会となる。学生には積極的に参加していただきたい。(水越)
- ⑬ 学生自治会は学校に必須。本格的な組織ができて良かった。(勝間田)
- ⑭ 学生の学生による学生のための組織が主体的な学校生活につながっていくものと考えます。  
各イベントの目的とどのような力を付けるかといった目標を設定されたほうがよりいいのでは。(松下)
- ⑮ 今までなかったのですね。委員などをやりたい方は沢山いるといいです。(高橋)
- ⑯ これからがとても楽しみな組織。ぜひ続けて学生全員をまきこむようなイベント等を開催してもらいたい。(藤本)
- ⑰ 学生がいきいきと活動される姿が想像できました。(谷)
- ⑱ 学生主体参加型の組織によってスポーツフェスティバル、学園祭が運営されていくのは最も望まれること。そのことにより、社会人としての基礎力・キャリア教育のベースになると思います。監督は目立たないように学園で。(小澤)
- ⑲ 面白い取り組みだと思う。ぜひ学生主体で学園生活を楽しめるものにしてほしい。(秋永)
- ⑳ 学生主導で活動できる場は良いことだと思いますが、過去のイベントを経験してきて先生方の介入部分を統一、はっきりさせたほうが良いと感じました。そのため、こういった学生主導の活動が増えれば、もっとイベントも学生主導化していくことができるのではないかと期待しています。他学科との交流も少ないので、きっかけとして良い切り口かと思います。(三浦)
- ㉑ 着々と準備が進んでいる姿が見える。学生が率先しているのは良いが、もっと多くの生徒にその動きがわかるような工夫が必要と思われる。(伊藤)
- ㉒ 学生自身が進めていける場所があるのはいいと思う。(戸嶋)
- ㉓ 新宿文化センターで、学生だけで前に出てきて新しいメンバーを募集していましたが、組織内でも学生の意見が尊重されているということは素晴らしいと思いました。(假野)

## 2.教育力の向上

### 1) オリジナル教材開発

ご意見 (原文まま)	前期の取組について	十分 : 27 96.4%	不十分 : 0	未回答 : 1
------------	-----------	------------------	---------	---------

#### 委員コメント

- ① オリジナル教材の開発には講師陣のレベルアップが必須かと思います。学校と企業間の情報交換、技術交流も含めソフトの部分の充実が教材開発の前に必要かと思います。(浅賀)

- ②うろ覚えですが、前回よりも向上している気がします…。記憶に頼っている  
ので、次回は何らかの比較が出来る数字を見せて頂けると助かります。(石本)
- ③学生にとってベストな教材であればベストかなと思います。それがオリジナル  
である必要はもしかしたらないかもしれません。(井沢)
- ④設定目標の妥当性がわかりません。(内田)
- ⑤オリジナル教材、今日見れるのよいですね。(川崎)
- ⑥専攻科に独自の教材をオリジナルで作成している事は、他校に対しての「差別  
化」になりすばらしいことだと思います。(乗浜)
- ⑦実習科目中のオリジナル教材率が明確化されている。100%すでに達成している  
科もあれば、まだ 30%台の科もありバラつきはあるものの確実に進捗しているこ  
とがわかった。(舟山)
- ⑧学生の理解を促すためのオリジナル教材は有用と思います。(佐々木)
- ⑨教材を是非見たかったです。(宮井)
- ⑩目標数値設定はどのようにしているのでしょうか？割合だけでなくプロセスと  
内容も重要だと思います。(満岡)
- ⑪今後も継続して取り組んでいただきたい。(水越)
- ⑫学科の独自・特徴ある授業を行うにはオリジナル教材が有効。このオリジナル  
教材のデジタル版もあると良いのでは。(勝間田)
- ⑬よく努力されていますね。(松下)
- ⑭より分かりやすい授業になるために、頑張ってくださいたいです。私のオリジ  
ナルは絵を入れています。(高橋)
- ⑮これからも向上にむけ、開発をすすめていてもらいたい。(藤本)
- ⑯教材見れなくて残念です。(日比野)
- ⑰オリジナル教材開発は教育力向上の一手法だと思います。同時に、既存の市販  
本、プリント等の補助教材でより一層の向上をめざして下さい。(小澤)
- ⑱学校の進度等が統一できるので良いと思います。(三浦)
- ⑲目標達成の数値が多いように思える。しかし目標よりかなり少ない数値の科が  
見えるので検討すべき。(伊藤)
- ⑳元々からある科目だけでなく、あるものはやる気があがるのでありがたい(戸  
嶋)
- ㉑私の科 (CG 科) はオリジナル教材率は低いですが、必要な時はその都度先生方  
が適切だと思った教材をプリントとして配布して下さるので、十分だと思います。  
(假野)

## 2) 目標資格の取得率向上

ご意見 (原文まま)	前期の取組について	十分 : 22 78.6%	不十分 : 3	未回答 : 3
	委員コメント			

①再度申し上げますが、取得率からみてもアニメーション科・アニメーション研  
究科における色彩検定 3 級の取得は疑問です。一度、学生から直にどんな資格を

- とりたいかをヒアリングしてみても良いのかと思います。(浅賀)
- ② (1) オリジナル教材開発と) 同上です。(石本)
- ③ “最低ライン”の取得率として良いのではと思います。(井沢)
- ④ 学科によって取得率にバラツキが大きい。資格取得の意義、目的などを再考する必要もあるのでは！(内田)
- ⑤ 最低レベルの保証ってあんまりやらないのでいいと思います。専門学校にとっては重要なことだと思います。(川崎)
- ⑥ 専門学校と大学の大きな差は、この資格の所だと思う。確実に資格を有している⇒まじめに学生生活を送った「証」と判断する企業人も多いと思います。取得率の向上は、学校の評価でもあり是非頑張っ欲しい。(乗浜)
- ⑦ 目標資格の取得率向上についてもすでに取得率が高く、良い状態にあると言えると思われる。(舟山)
- ⑧ CGに関しては、資格は難しいかもしれないですね。ただ、最低の質保証は理解できますので、何がベストかは今後も取り組むことで改善していただければと思います。(新)
- ⑨ 情報処理系の学科に対しては、IPAの情報処理技術者試験が宜しいかと思いますが、やはり学生には難しいものでしょうか。資格取得は技術や知識の体系的な習得に有用と思いますので、目標達成できるような支援体制の整備も検討されると良いと思います。(佐々木)
- ⑩ CG・映像制作科は2つの資格が明記されていますが、両方とも74%なのでしょうか？(宮井)
- ⑪ 資格試験時期と学習タイミング依存にはなるかと思います。取得数公開はとも分かりやすい能力指標になっていると感じました。(満岡)
- ⑫ 取得率向上のために、より一層学生のサポートをお願いしたい。(水越)
- ⑬ 取得率が低い資格がいくつかありました。率が低い原因が気になります。(米井)
- ⑭ 各学科、最低の取得資格を決め、それをクリアできない学生は補講をしたり進路延期などの決め事をして意識を高めさせては。(勝間田)
- ⑮ 最低の資格取得とのことですが、目標とする資格ならばもう少し上を設定したほうが良いとやはり思うのです。不十分とは言えませんがご検討いただけたらと思います。(藤浪)
- ⑯ 取得率低いのは、就職との関係が強いのでは？(松下)
- ⑰ 最低ラインの目標？でしたら、90%以上？お願いします。(高橋)
- ⑱ ただし、かなり低い%のところもあるので、そちらは改善を目指してほしい。(藤本)
- ⑲ 取得率の低い学科の更なる向上を期待しております。(清水)
- ⑳ 最高の取得も参考までにのせてほしい。(日比野)
- ㉑ 取得率100%を目標とする資格も重要であると認識しておりますが、25%などと設定するレベルの高い資格もあるとよと存じます。(谷)
- ㉒ 技術系の専門学校では目標資格の設定がある程度明確にできると思います。学生には資格取得により学習意欲を増々持つように教育をしていただきたい。(小澤)



- ②必要な資格が分かるのと目標を持てるので、専門学校**の強みの部分だ**と思います。(三浦)
- ④100～90%合格が多くみられる。10～30%の科も多く見られるので、これからの変化に期待。(伊藤)
- ⑤試験の情報についてももう少し広めて欲しい。7割取れていると思うが、低すぎる所もあるので、少しでも%をあげないといけないと思った。(戸嶋)
- ⑥最低、皆が出来ていることを掲載していることは保護者等も安心でき良いと思いました。(假野)

### 3. 第三者評価への対応

ご意見 (原文まま)	前期の取組について	十分 : 26 92.9%	不十分 : 0	未回答 : 2
------------	-----------	------------------	---------	---------

#### 委員コメント

- ①学校機関における第三者評価は、民間企業における ISO のようなものでしょうか。品質保証と言うには少し違和感がありますが、教育の質向上の取り組みとしては良い施策なのではないかと思えます。(浅賀)
- ②細かな資料の作成、そしてご対応お疲れ様です。認証がスムーズに行くよう折っております。(石本)
- ③すごく大変なんだなというのがよく分かりました。学校のブランドとしては重要なものにも思えます。(井沢)
- ④各項目についての取り組みが適正に評価され認定されることを祈念します。(内田)
- ⑤認証が社会で活用されているのか気になるところ。価値ある学校である証明が正しくできるとよいですね。(川崎)
- ⑥多大なる資料の作成は真摯に取り組んでいる証拠であり、評価出来ると思えます。(乗浜)
- ⑦全部署分担制を行っている為、誰がいつまでに何をすべきかが明確になっている。当然ながら全体のスケジューリングも明示されている為、第三者評価への対応は問題ないと思われる。(舟山)
- ⑧第三者評価への取り組みは、客観性を持った適切な学校運営に欠かせないものと思えます。認証が5年に1度とのことなので、その間の自己点検など年次の取り組みもできると良いですね。(大変と思いますが…)(佐々木)
- ⑨毎回ご準備大変だと思います。(宮井)
- ⑩義務ではないのに、大変な労力を費やしたことに熱意と想いを受け止めました。素晴らしい事だと思います。(満岡)
- ⑪時間を要し、作業の手間はかかるが、対外信用向上に繋がるため重要である(水越)
- ⑫第三者評価は学校・職員が常に向上する意識を持続させたり、改善したり効果があるだろう。又、学校が発展・持続する基となろう。(勝間田)
- ⑬すばらしいですね。(松下)

- ⑭自己評価報告書の回覧には驚きました。正直、気になるところを見るくらいでした。(高橋)
- ⑮大変な作業だとは思いますが、今後も続けてもらいたい。(藤本)
- ⑯回覧冊子まわってきませんでした。(日比野)
- ⑰自己評価報告書は十二分に評価に耐えられる内容であり、教育内容等学園の取り組みが実質的に運用されると思います。運用に力を入れて下さい。(小澤)
- ⑱とても充実していると思います。(三浦)
- ⑲学生の成果が多くの人に見られているのは良い事だと思う。(伊藤)
- ⑳1つ1つ細かく分担されていてこのように評価が行われているのは凄いなと思った。(戸嶋)

### 全体自由意見 【学校の改善に資するご意見】

- ①改善、特に質的改善は一朝一夕に達成できるものではありませんが歩みを止めた時点で失敗するものであると考えます。小さな改善から学校の中心的ポリシーの改善のような大きなものまで多々あるかと思いますが、たゆまぬ改善力と持続力をもって前へ進んでいただければと考えております。(浅賀)
- ②(1)得手・不得手は何にでもつきものですが、貴校の場合、歴史のある分変えずに行くもの、変えるべきものの選別が不明瞭な気が致します。学園が、学校が何を目指すのか、もう少し簡潔に誰にもひびく言葉でまとめること、それを皆の合言葉とすることなど。最新のマネジメント手法を学校経営に取り入れることをお考えになってはいかがかと思ひます。
- (2)ゲーム担当委員としては、TGS 出展よりも日本ゲーム大賞での入賞を何としても達成して頂きたいと願っております。
- (3)その他の報告事項:その(2)が衝撃でした…。発覚しなければよかったのか?先生方からの報告義務が軽く見られている気がします。(石本)
- ③学生自治組織の先生の予想以上のアクションがあった点は活かされるとよいと思います。ラーニングコモンズの検討につながるのではと思います。(上手くつなげられると良いかなと思います。)(井沢)
- ④単に知識のみでなく、協調性や自立性、コミュニケーション力など人間力を養う取り組み(アクティブラーニング、学生自治組織とそのベースとなる3つのポリシー)の活動を是非継続し、魂を入れて下さい。(内田)
- ⑤現状の教育スタイルのトレンドをしっかりとおさえていて素晴らしいと思います。だいたいのそのトレンドは大学 or 小中高の教育向けであることが多いので、ぜひ専門学校としてのあり方を先導的に作っていったらよいのではと思います。(川崎)
- ⑥募集人員を早期に満たしている実績は校長をはじめ、職員各位、学校関係者、卒業生、在学生の評価・実績であり、学校運営を真摯にやっている証だと思います。概念にとらわれない独自の方向性を出しながら貴校の教育ポリシーを実践していただき、更なる発展を希望します。悪いことも報告して情報を共有している点は、評価できると思います。以上。

(余談ですが) アクティブラーニングはひとり管理者(コーチ)が必要で、方向性を決めなければ暴走しますので要注意かと?8年ほど前に、アクションラーニングのALコーチの資格を取りましたので、協力出来るところがあれば…。(乗浜)

⑦総てにおいて、目的・目標・役割・スケジュールが明確であり、問題は見当たらなかった。今後も継続的に頑張ってください。(舟山)

⑧個人的には前回の方が資料は興味深かった印象です。目標に対してどのような進捗があるかなどが一目でわかると良いと思います。AI学科をかなり早くに立ち上げられたり、CGもそれこそほとんどツールが無い時代から教育されていたりと他の専門学校には無い先見性があると思いますので、是非そのような取り組みを続けてください。(新)

⑨常により良い形へ実現に推進されていることはすばらしいと思いました。(佐々木)

⑩さまざまな取り組みを毎回聞かせて頂く度に感心しております。教育重点項目が目標通りに具体化されることを期待いたします。(宮井)

⑪全体を通して、いつもながらメンバーの方々の日々の努力に感銘を受けます。入学、就職数の話がありましたが、結果が表れているのだと思います。タレント性の持った卒業者が、OB・OGとなって学校の更なる向上に寄与していくことを期待します。(満岡)

⑫学生が社会に出て活躍するために、学生にとってどのような環境が必要なのかを考え、様々な取り組みを行っていることがよく分かる。学生自活は学生にとって参加して損になることはないと感じるし、参加しやすい環境作り、サポートを期待したい。(水越)

⑬(委員会の運営について)「マンネリ化」という話がありましたが、同じ項目を評価しているので、マンネリで良いと思います。評価する項目数によって、委員会の時間も長短あってよいのでは…。(米井)

⑭学生自治組織は前から有ったのではないかと思ったが、本格始動とのことで良かった。学生の意識も高まり学校への愛着心も増加させる。学校も自治組織を通じ学校の活動の協力をしてもらったり、良い関係となる筈です。(勝間田)

⑮このような活動が専門職大学につながるものと確信しています。(松下)

⑯入学式の時、校長先生がスペシャリストになるためのお話をして下さいました。

①自己管理(毎日出席すること)②友人関係(同じ目標をもってお互いに頑張る)

③対外活動、競技大会などの参加など。現在まだ途中ですが娘も頑張っています。沢山の経験もさせていただきありがとうございました。(高橋)

⑰今回で2回目の参加ですが、前回よりも分かりやすく、また丁寧だと感じました。今後のさらなる改善に期待しています。(藤本)

⑱学校教育を終えた時「本当に充実した3年間だった」と言ってくれる事が、この学校に決めて良かったと親も思えるものと思います。まだ半年で、結果はよく分かりませんが、校舎が散在していることで多くの学生と交われないことに親として少し寂しさは覚えますが、放課後にも学校に残って活動することなど、担任の先生から声かけしていただいていることをありがたく思っています。(植村)

⑱ さまざまな取り組みを行われているので、今後の発展に期待が持てました。大変だと思いますが、努力を続けて頂きたいです。今後とも宜しくお願い致します。

(清水)

⑲ 改善も何も、とても熱心な学校だと思っているのでこのまま引き続きよろしく  
お願い致します。(日比野)

⑳ 学生自治組織に期待しております。頑張ってください。

いつでも実習が行えるよう、実習環境もクラウドへ移してはどうでしょう。(谷)

㉑ 卒業生の活躍、在校生の活躍は学校と学生の大きな財産であり、競技会、コン  
テストで立派な成績を残しております。産学の協力による強力な企業連携に基づ  
く教育効果の一つであり、その効果はめざましいものがある。キャンパスライフ  
についても学生参加型のボランティア活動、その他のイベント…、これらは人間  
教育の基礎になるかと思えます。(小澤)

㉒ 学生自治組織というものができているのは知らなかった。先輩や後輩が交流で  
きる場やデッサンなど能力を上げることを目的とした交流、様々なことができる  
と思います。先輩から生の声でポートフォリオの使い方を教わる講座みたいな  
のも良いですね。学生の数が増えるのは良い事だがそれに伴って先生の数を増やす、  
教育の質を上げてほしいです。授業についていけなくなって退学してしまう人が  
増えてしまっては意味がありませんからね。(秋永)

㉓ 在学生として特に不満もなく充実した毎日を過ごせていますが、現場のプロか  
らのセミナーだとか、外部の方と関わる機会やモチベーションを上げるイベント  
があったら嬉しいです。やる気がある生徒には充分に応えてくれる学校体制だ  
と思うので、現状に特に問題は感じていません。Webデザイン科は特に横のつながり  
が強かったり、外部との交流も多かったりするので、技術以外に学べる点も多い  
のがとても良いと思っています。(三浦)

㉔ 後期に入り、先生方とコミュニケーションを取る機会が多くなりました。就職  
や学習についての質問や悩みにも丁寧に答えて頂きとても助かっています。また、  
先生同士でもよく意見交換をしてもらっているようで、授業形態の改善が見られ、  
熱心に指導して頂いているのを感じました。

スポフェスや日専祭は、一般の人があまり見られなかったなので、もっとアピール  
や盛り上げが必要。(伊藤)

㉕ 後期では授業内容が基礎から応用へ変わって少し難しく感じましたが、先生方  
が丁寧に教えてくださっているのでしっかり理解してから進めていけている。た  
だ、授業内では終わりきらない実機やスイッチを使った実習がたまにあるので、  
放課後にやりたいと思っても中々できないのが残念です。

インターロップやITProなどの大きな展示会だけでなく、1つの企業への見学会や  
学校での説明会もあったりしてこういう機会があるのは沢山の企業さんを知れて  
ありがたいです。(戸嶋)

㉖ 次はさらに改善されると思うととても楽しみです。生徒の声をとても聞いて下  
さっている姿勢に感動致しました。(假野)

#### IV. 平成 29 年度第二回学校関係者評価委員会議事録

1. 日 時 平成 29 年 11 月 13 日 (月) 15 : 00 ~ 17 : 10
2. 場 所 日本電子専門学校 7 号館地下 2 階 7B22 教室
3. 参加者 学校関係者評価委員、日本電子専門学校担当者

属性	氏名	所属	役職
企業	浅賀 央起	株式会社ぴえろ	執行役員 人事総務部 部長
	石本 則子	株式会社スタジオフェイク	代表取締役
	井沢 祐	株式会社スタジオフェイク	研究開発部 ディレクター
	内田 昌宏	株式会社ラック	常務理事 事業企画部・営業 本部 シニアコンサルタント
	川崎 紀弘	株式会社コンセント	
	舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン	PV 事業部 営業戦 略室 室長
	乗浜 誠二	株式会社ナレッジコンスタント	代表取締役
	新 和也	オートデスク株式会社	メディア&エンターテインメント セールスマネージャー
	佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	代表取締役 チーフセキュリティアドバイザー
職能団体	満岡 秀一	一般社団法人 Open Embedded Software Foundation	理事
	宮井 あゆみ	CG-ARTS 協会	事務局長
	水越 一成	東京商工会議所 新宿支部	
	米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	研修委員会 委員
卒業生	谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	プロジェクトリーダー
保護者	高橋 智子		
	藤本 香織		
	植村 美智子		
	清水 啓子		
	日比野 晴美		
高校教員等	藤浪 優	株式会社ウィザス	第二教育本部 教育運営部 ICT 推進室 主任
	松下 秀房	目白研心中学校・高等学校	理事 校長

高校教員等	勝間田 清一	日本大学生物資源科学部	非常勤講師
地域住民	小澤 博太郎	百人町西町会	会長
在学学生	秋永 美穂	高度コンピュータグラフィックス科	4年生
	三浦 稚子	Webデザイン科	1年生
	伊藤 史華	アニメーション科	1年生
	戸嶋 瑠奈	ネットワークセキュリティ科	1年生
	假野 紗希子	コンピュータグラフィックス科	1年生

日本電子 専門学校	古賀 稔邦		校長
	船山 世界		副校長
	杉浦 敦司	教育部	部長
	佐々木 卓美	教務部	部長
	高橋 陽介	キャリアセンター	センター長
	内田 満	総務部	部長

#### 4. 進 行

時間	内 容	担当
15:00	開会 ・ 本日の予定案内 ・ 配布資料確認 ・ 学校側参加者紹介	司会：内田
15:25	平成 29 年度自己点検中間報告会  ＜平成 29 年度教育重点項目＞ 1. NEXT10（日本電子専門学校の更なる伸張）の確実な実施 1) 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」 2) アクティブラーニングをサポートするラーニングコモンズの充実 3) 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実 2. 教育力の向上 1) オリジナル教材開発 2) 目標資格の取得率向上 3. 第三者評価への対応 1) 専門学校の第三者評価の位置づけについて 2) (NPO) 私立専門学校等評価研究機構の第三者評価について 3) 本校の第三者評価の取り組みについて	進行：舟山 (委員長)  杉浦 佐々木  高橋 古賀  船山
16:10	評価用紙記入	

16 : 15	<前期トピックス報告> 1. 学校紹介ムービー 2. 学習成果報告 3. ボランティア活動報告	杉浦 内田
	<その他の報告> 1. 爆破予告事件解決について 2. 改善報告	内田 佐々木
16 : 40	全体自由意見	
17 : 10	終了	

## 5. 全体自由意見

### <浅賀委員>

報告をお聞きして、学校としての改善を限りなく続けているという姿勢に感動しました。私も何度も何度も失敗していますが、改善は止まった時が失敗だと思しますので、ぜひ継続していただきたいと思います。

### <石本委員>

今回の報告の中で一番気になったのは、最初の項目について、ポリシーから行動指針に落としていくというところで、行動指針というアクションの部分と建学の精神とが本当に結びつくのかどうか、いわゆるクレドというものがどういう扱いなのかをもう少し精査する必要があるのではないかと考えています。これは最新の技術経営の学問の中でも再三取りざたされていることなのですが、きれいにまとめようとするとなかなかうまくいかないということもあると思います。先生方の英知を絞って、よくあるものではなくて、この学校ならではのクレド的なものを作り上げていただければと思います。

### <井沢委員>

学生自治組織の件で、先生方の予想以上のアクション、結果があったということで、それが活かされると良いと思いました。また、ラーニングコモンズの検討をされているとのことですので、この二つがうまくいくと、さらに学生の自主性が増すのではないかと考えました。

### <内田委員>

最後の佐々木先生のご報告（問題点の改善報告）にもありましたが、何か課題があるとすぐに取組まれてご報告いただく、この素早さと真摯な姿勢に対して本当に頭が下がる思いです。NEXT10に対する取組の中で、アクティブラーニングや学生自治組織は、単なる知識を身につけるということだけではなくて、例えば、協調性や自立性などの人間力を高める取組として非常に重要だと思いますので、継続して魂を込めた活動にしていただければと思います。

### <川崎委員>

現状の教育スタイルのトレンドをしっかりと押さえられており、素晴らしいなと思いました。だいたいそういうトレンドは大学や小・中・高教育向けのトレンドが多いのですが、それを専門学校という立場の中でどういう風にアレンジしていくかというか、専門学校専用の考え方というのを先導して日本電子専門学校がやっていったら良いのではないかと考えました。ラーニングコモンズなども、“ラーニングコモンズ”と言うよりも“自由なラボ”と言った方が、実は専門学校としては向いているのではないかと考えるので、そういう検討をしていただければと思います。

### <乗浜委員>

一番評価できる点として、募集人員を早期に満たしているという実績は、校長先生をはじめとした教職員各位、学校関係者、卒業生、在校生の評価・実績であり、学校経営を真摯にやっている証だと思いました。また、概念にとらわれない形で独自の方向性を出しながら、貴校の教育ポリシーを、これからも実践していきながら、



更なる発展を希望しています。さらに、悪いことも報告していただきながら、情報を共有している点も評価できると思いました。

<新委員>

私は、前回から参加させていただきましたが、今回マンネリ化しているとのことで、だいぶあっさりしたプレゼンに変えたとのことですが、自分としては、前回の方が面白かったです。今回は、薄いという印象を受けたので、今後どうされるかということだと思います。また、CGの分野に関しては、日本の企業が生き残っていくということが、かなり厳しくなっており、中国をはじめとしたアジアがものすごく伸びており、日本から仕事を出してもそれらの国の方が単価が高くなっているため、（日本の仕事を）受けないという状況になっています。加えて、（日本の）企業内でも中国人や韓国人の方が死に物狂いでやっているのので、評価が高く、優秀だと言われています。こういう話を聞けば聞くほど恐ろしさを感じていて、ぜひ日本電子さんには、世界で活躍しているような優秀な卒業生を出しているのので、今後の3~4年後を見たCGのクリエイターというのはどういう人材なのかということ意識した教育を行っていただけると我々業界の人間として助かると思っています。

<佐々木委員>

本日初めての参加ということで、普段学校の中のこととかあまり見えないことが、本日の報告を伺って、皆様がいろいろな取り組みを、課題を持たれて行っているということが分かり、非常にすばらしいと思いました。自治組織については、学生の自主性を持たせる上でも非常に重要で有益な取り組みだと思います。既に0期生が自らいろいろな活動されていることも成果が出ている点だと思いますので、今後この活動には期待が持てると思います。もう一点は、いろいろな競技大会やコンテストに参加している学生が居らっしゃるという報告がありましたが、最近の若者は競うことが苦手な方も多い中、周りと同じながら切磋琢磨して、向上心を持って物事に取り組むことは非常に大切なことだと思いますので、今後とも積極的に参加を促していただければより良い形になるのではないかと思います。

<宮井委員>

毎回参加させていただいておりますが、今回のようにヴィジュアルで見せていただいたのは初めてでしたので、その部分はとてもリアリティーをもって実感することができました。今回のご報告の中では、「教育力向上」について、あまり具体的な話がなかったので、その辺りは、教育機関としては、もう少し丁寧に行っていた方が良かったと思いました。ただ、毎回真摯な姿勢で取り組んでおられることに感銘を受けており、専門学校として非常にすばらしいと思いました。

<光岡委員>

今回初めて（日本電子専門学校の）コマーシャル映像をみましたが、何か素晴らしい学校で、自分もいきたいなと思いました。（映像を）観ながら、これは息子を入れるしかないなと思いました。まだ3歳ですが。

<水越委員>

本日中台委員の代理参加ということで、初めて参加させていただきましたが、学生のことを思って様々な取り組みをされているんだなと強く感じました。私個人とし

ては、学生自治について、学生にとって貴重な経験になると思いますので、ぜひ多くの学生に参加していただきたいですし、また、参加しやすい環境作りをしていただきたいと思いました。

<米井委員>

教育重点項目の内容に関しては、すべて十分やられているのかなというのが私の印象です。アクティブラーニングは、定義も解釈も多様で、評価が難しいと思っています。まずは環境を整えてということだと思いますが、実際には学生がそこを使ってどんなことをされるのか、何が新しく生まれてくるのかというところを期待したいと思っています。また、この会の運営に関しては、いろいろな意見が出されていますが、学校内ではこの委員会以外にも職業実践専門課程の別の委員会を年に何回も行っていると思いますので、他の委員の皆様にもその点をご理解いただき、私自身は、それがよく分かっているので、あっさりぐらいでも良いのではないかと思います。

<勝間田委員>

相変わらず学校の評価を細かくやって、大変良いのではないかと思います。マンネリだと仰る方もおられるようですが、マンネリはある程度良い面もあり、繰り返すことによって、学校全体が同じような意識を持って向上や発展を考えるひとつのきっかけになるのではないかと思います。その結果として、古賀校長先生が仰られた通り、好調な募集状況につながったのではないかと思います。また、佐々木先生より学校の失態について報告がありましたが、そういうことを隠さず公表するということは、すごく真摯だと感じました。自分も大学で講師を務めていますが、簡単に休講にしたり、自分の都合で時間割を変更したりという例もあり、その点この学校（日本電子専門学校）は真面目にやっていると感じました。

<藤浪委員>

お話を伺って、問題が起こった際に学校がすばやい対応で修正している点が印象的でした。また、ラーニングコモンズやボランティアについて、学生自治組織がしっかりと出来上がればうまく回っていくのではないかと思います。

<松下委員>

日本電子専門学校では、時代の方向性というか、ベクトルをよく感じて、現在のテーマをしっかりと共通認識して教育にあたっている様が見えました。アクティブラーニングについては、文科省では「主体的で共同的で深い学び」という、これは社会人の誰が聞いても分かり易い言葉で表現しており、私は今学校業界におりますが、文科省もようやく分かり易い表現になったと思っています。大学でもラーニングコモンズに取り組む学校が増えてきていますが、これは学生が、学校側が用意した時間内での学習のみならず、それ以外の時間で、自分で主体的に自由な研究に取り組む“場”が必要とされているのではないかと思います。そういう面では、ラーニングコモンズの使いやすい環境というのが大切で、今の共通認識は、飲み物や食べ物がすぐ手に入る環境が公立の図書館などでも準備されていたり、学校環境の中でも、例えばすぐ自販機を側に置くとか、そういうことがあるのではないかと思います。もう一つ、学生組織で、いろんな組織を作られて、行事をなさるとは思います。

大連携教育改革の中で、今後高等学校でも様々な行事を通してどのような力をつけるということを目指しているのか、それによって学生生徒がどのような力や身に付いたことを表現できるかがテーマだと言われています。そういう面では自治組織のような組織を作られて、それが必ず就職に役立つということを併せて考えれば更なる伸張が期待できるのではないかと思います。

<高橋委員>

前回、授業のチャイムのことをお話しさせていただいたのですが、余計なことを言ってしまったのではないかと考えているのですが、早速対応していただき、また、生徒たちの授業アンケートを取り入れていただき、ありがたく思っています。また、私事ですが、娘がこの夏に初めて「ものづくり競技大会」に参加させていただき、ほんとに娘を出していただいてありがたいと思っていますが、本人もいろいろ気付いた事があったり、勉強になった様です。ほんとにありがとうございました。

<藤本委員>

今回2回目の参加ですが、前回同様いろいろなことに取り組まれていることが良く分かりましたので、参加して良かったと思います。先日、学校で保護者会がありまして担任の先生と初めてお話しさせていただきました。その中で、学力面だけではなく、性格面の方もきちんと見ていただいていると感じまして、とても安心しました。来年になれば就職活動が始まりますが、現在も様々なインターンシップ等に参加させていただいており、いろいろと良い経験を積ませていただいてありがたいと思っています。今後共よろしく願いいたします。

<植村委員>

前回は今回も感じたのですが、第一線で働かれている企業の方々を見ていて、果たして我が子がどの社会に入っていけるのかと不安になるくらいバリバリのように見えていました。先日個人面談があったのですが、この学校に来て良かったというのが今まで分からない状態だったのですが、人と人とのつながりで、先生方が緻密に繊細に見てくださっているということにすごく安心を覚えました。

<清水委員>

前回から出席させていただいたのですが、皆様お忙しい中、様々な取り組みをされているということでもっとも感心しました。これからも努力をしていただき、更なる向上を期待しています。

<日比野委員>

私も今日2回目なのですが、専門学校っていうのが、うちの子が初めて行ったので、どういったところか分からなかったのですが、すごく教育に対する取り組みが素晴らしいなということで、満足していますので、このまま続けていっていただきたいと思いました。

<谷委員>

内容については、いつもすばらしい内容で勉強させていただいているような感じがします。一点だけ気になったことがありまして、学校の紹介VTRの最後の杉浦さん(教育部長)の顔が硬いかなと思いました(笑)。ちょっと怖かったです。千葉県のCMで千葉県知事が「いかがでした千葉県！」みたいな笑顔で登場すれば“決まった”

のかなと思いました。

<小澤委員>

今日私が一番インパクトを受けたのは、映像でした。もう既に何人かの委員の方がお話しされていますが、ある意味では、文字で説明していただくより分かり易いところがありました。特に卒業生、在学生の活躍、競技会やコンテストで立派な成績を残してますね。これはもちろん学校にとってもそうですが、同時に学生本人にとっても大変な財産だと思います。その意味で、まずその紹介があって、ベースに産学共同の話があったり、その背景には強力な企業連携に基づくものがある。そういうことが、今まで学校そのものがキャリアを積んできた一つの大きな成果だと思います。ぜひその点を大きく伸ばしていただきたい。それともう一つは、ボランティアの活動のお話もありましたが、今後、学生主体参加型の自治会のようなものもできるとのお話しでしたが、ぜひともこのようなものは、技術教育と同時に人間教育の基礎となりますので、この二つをますます発展させていただきたいと思いました。

<秋永委員>

私は今インターンシップに行っていて、学生自治組織というものができるということを知らなかったのですが、とても興味深いものだと思います。本格始動を楽しみにしています。この（自治組織の）中で、学生間での就職活動などの交流会があれば、例えばポートフォリオをどういう風に作っているかなど、居なくなった先輩（卒業生）のものではなく、今居る先輩たちの話も聞けたりするので、そういうことがあったらいいなと思いました。後は、冒頭で校長先生が仰っていた、学生の人数がとても増えてきているということですが、先生の数をそれに比例して増やすことができないかもしれないので、そこで退学する生徒が増えていかないといいと思いました。

<三浦委員>

在校生として、今まで過ごしてきた感想ですが、やる気がある生徒には十分に伝えてくれる体制が良いなと思っています。他学科とはあまり関わる機会がないので分かりませんが、私の所属する Web デザイン科は、特に先輩方との交流や、先日(10/3)も(他の専門学校)5校合同プレゼンテーション交歓会というのがあったのですが、そういう機会の多い学科です。専門学校は技術を学ぶ場という印象があったのですが、技術以外に学べる部分がたくさんあって、そういったことも良いなと思っています。後は、個人的に、現場の苦労話などが聞けるセミナーやモチベーションを上げるイベントがあったらうれしいと思いました。

<伊藤委員>

私は、現在アニメーション科に在籍していますが、ゲームショウのゲームのタイトル画面を書かせていただいたり、とても貴重な経験をさせていただいて感謝しています。後期に入ってから、授業で先生方とのコミュニケーションが出来るようになって、質問や悩みにも真摯に答えていただきすごく助かっています。また、先生同士でも意見交換をしているのを聞いて、その結果、授業形態の改善が見られて、熱心に指導していただいていると感じられるところがとても良いなと思いました。

<戸嶋委員>

後期では授業内容が基礎から応用へ変わって少し難しく感じましたが、先生方が丁寧に教えてくださっているのでしっかり理解してから進めていけている。ただ、授業内では終わりきらない実機やスイッチを使った実習がたまにあるので、放課後にやりたいと思っても中々できないのが残念です。インターロップやITProなどの大きな展示会だけでなく、1つの企業への見学会や学校での説明会もあったりしてこういう機会があるのは沢山の企業さんを知れてありがたいです。

<假野委員>

私も前回に続いて2回目の参加ですが、前回議題に上がったことが今回の報告で改善されたことが発表されて、とても意義のある会だなと思いました。私も何か言ったらここで改善されることがあるのではないかと思います(笑)。私は、当初コンピュータグラフィックス科で3Dに酔ってしまったり、いろいろと問題があったのですが、先生方がとても親切に、何度も大丈夫?と声をかけてくださって、体調も改善したので、そのような優しい言葉に応えられるよう勉強面でもっと頑張ろうと思いました。また、先輩方も、今就活の時期で、自分自身は就活を終わられているのに、熱心に話をしてくださったり、先輩と先生方が協力して私たちの就活をもっとスムーズにする様そういう機会をつくってもらったり頑張っているの、ありがたいと思いました。そういう面ですべてがとても良い環境でできていると思うのですが、一点言うとするならば、少し休みが多いなと感じています。それはカリキュラム上で決まっているのだと思いますが、とても休みが多くて、その時間に自由な制作活動ができるという利点もありますが、もっと授業の時間があったらうれしいなと思いました。

<舟山委員>

企業でよくPDCAを回せと言いますが、回った試しはほとんどありません。学校の方がむしろしっかりと手本になって、いつ誰が何をするのかということがすべて計画通りに行われている姿を拝見し、逆に私は毎回勉強させていただいております。

## V. 付属添付資料

第二回学校関係者評価委員会中間報告説明資料

# 平成29年度 第二回学校関係者評価委員会

平成29年11月13日（月）



本日の予定  
15:00～17:00  
評価委員会  
(中間報告)  
17:00～18:30  
懇親会

校長挨拶

古賀 稔邦

1

## 取組みについて 中間報告 評価・ご意見 記入方法

### 教育重点項目

重点項目1 NEXT10(日本電子専門学校の更なる伸張)の確実な実施

ご意見

前期の取組について	十分	不十分
-----------	----	-----

議長選出

## 平成29年度中間報告

## 平成29年度「教育重点項目」 途中経過報告

- 1.NEXT10(日本電子専門学校の更なる伸張)の確実な実施
  - 1)「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」
  - 2)アクティブラーニングをサポートするラーニング commons の充実
  - 3)学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実
- 2.教育力の向上
  - 1)オリジナル教材開発
  - 2)目標資格の取得率向上
- 3.第三者評価への対応
  - 1)専門学校の第三者評価の位置づけについて
  - 2)(NPO)私立専門学校等評価研究機構の第三者評価について
  - 3)本校の第三者評価の取組について

### 1. NEXT10(日本電子専門学校の更なる伸張)の 確実な実施

- 1)「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の  
保証・向上」

【実現に向けて2つのプロジェクトを推進】

- (1) 基本理念策定プロジェクト
- (2) 三つのポリシー策定プロジェクト

### (1) 基本理念策定プロジェクト

「電子学園行動規範」  
「教員の行動指針」 } を新たに提示

↓  
ネームカードへ記載し常に携帯。

↓  
今後の課題として、学園内への浸透  
を図る方策を検討中。

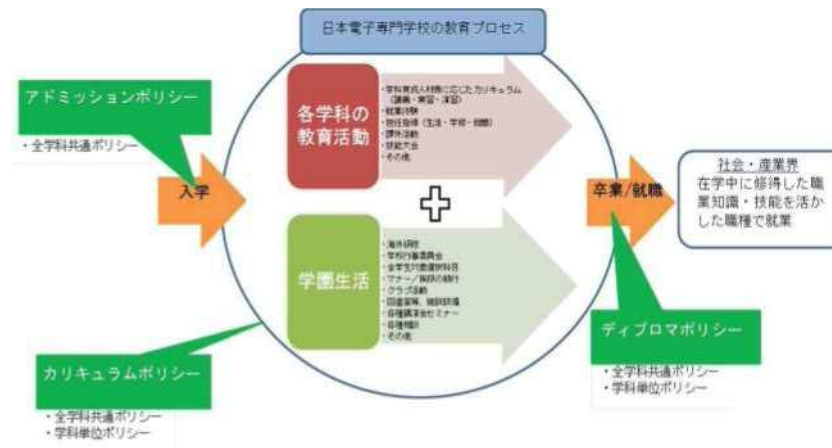


【ネームカード】



(2) 三つのポリシー策定プロジェクト

【教育に付随する三つのポリシー】



【スケジュール】

- 2016年度 ガイドラインの完成
  - \* 全学科共通ポリシー策定
- 2017年度 学科単位のポリシーの具体化
  - \* 4学科を先行して策定中
  - ポリシーに基づいたカリキュラム策定
- 2018年度 学科単位のポリシーを順次具体化
  - ↓
  - ポリシーに基づいたカリキュラムで教育開始
  - ↓
  - \* 2019年度以降
  - 評価と改善のためのサイクルを回す

1. NEXT10(日本電子専門学校の更なる伸長の)の 確実な実施
- 2) アクティブラーニングをサポートする ラーニングコモンズの充実

目的：授業内外で能動的な学修を支援するため、ラーニングコモンズの充実を図る

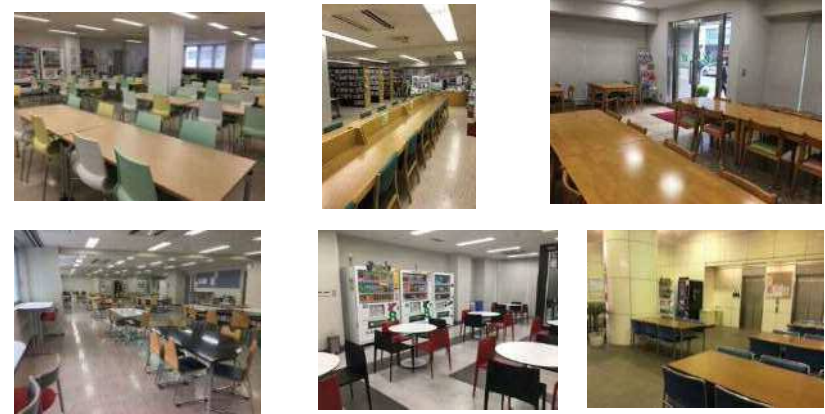
- 目標：(1)本校の図書室・オープンスペースなどの状況を把握する  
 (2)高等教育機関や企業の施設設備を見学する  
 (3)教育に関する展示会に参加し情報を収集する  
 (4)本校の環境に適合したラーニングコモンズ導入計画を検討する

## (1) 図書室・オープンスペースなどの利用状況

「ラーニングcommons」(Learning Commons)の充実を図るため前期は、以下の共有スペースの利用状況を調査した。

調査時間：13時 16時 17時

調査場所：図書室内自習室、1号館4階 オープンスペース、  
3号館1階、7号館2階 コミュニケーションスペース、  
6号館1階、8号館1階、12号館1階



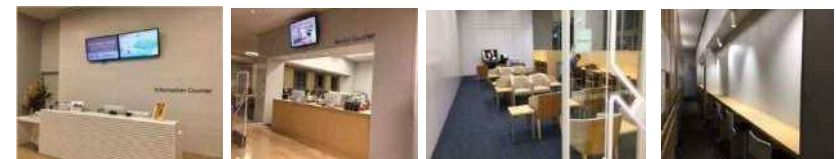
### ③前期の平均利用状況

場所	詳細	席数	13:00	16:00	17:00
3号館1階	図書室内の自習室	16席	4.1人	3.7人	1.7人
1号館4階	コミュニケーションスペース	90席	52.4人	28.0人	17.7人
3号館1階		18席	10.3人	4.2人	1.7人
6号館1階		32席	16.6人	6.0人	2.7人
7号館2階	オープンスペース	77席	56.9人	23.8人	16.4人
8号館1階		32席	19.4人	3.2人	4.0人
12号館1階		34席	4.5人	0.2人	0.3人

## (2) 高等教育機関や企業の施設設備を見学する

### ①東京電機大学 千住キャンパス

高等教育機関では、先端のラーニングcommonsが充実している。他校からの見学も多く、都市型キャンパスとして参考になった。見学後に、総合メディアセンター企画・推進担当の高橋陽子様と意見交換を行った。



## ②青山学院大学 青山キャンパス

ラーニングcommonsの研究者 青山学院大学 教育人間科学部  
教育学科 准教授 野末俊比古先生にお願いをして、青山キャンパス  
の見学と意見交換を行った。



16

## ③株式会社 内田洋行

多数の教育機関にラーニングcommons導入実績のある  
株式会社 内田洋行 のショールームを見学し、意見交換  
を行った。



17

## (3) 教育に関する展示会に参加し情報を収集する

### ①New Education EXPO



### ②教育ITソリューション



18

## (4) 本校の環境に適合したラーニングcommons の導入計画を検討する

- ①新宿百人町に12の校舎 都市型キャンパス
- ②利用状況からも放課後の利用が少ない  
⇒ 実習室（オープン実習）、教室
- ③学科の枠を超えたコミュニケーションの場を提供
- ④利用したくなる環境作りが必要
- ⑤昼の使用率を考慮して席数の増（7号館2階）

※後期は上記の内容を更に検討し、一部導入が行われる


19

# 1. NEXT10（日本電子専門学校の更なる伸張） の確実な実施

3) 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

「学生自治組織の設立」に向けた検討

20



自分たちの手で学校生活を  
良くしていく！

第1期準備委員会に向けて

...

21



日本電子専門学校  
第0期 準備委員会メンバー

22



## 学生自治とは

学生（私たち）が主体となって、学生の交流や、学校への提案、イベント運営などを行う、**学生組織**です。

The Power of PowerPoint | thepopp.com

4

23

# 設立の背景

Background of establishment

大学を始めとする  
様々な専門学校でも  
学生主体の  
自治組織が活動中



◇大泉保育福祉専門学校「学友会主催の地域清掃活動を行いました」◇宮城文化服装専門学校「学友会ブログスタートです！」◇TSM音楽専門学校「友会活動 - TSM渋谷ブログ」◇仙台青葉服飾専門学校「仙台青葉服飾専門学校キャンパスブログ」◇学校法人TBC学院「【学友会】学友会&有志による献血運動」◇旭美容専門学校「新・学友会活動スタート・美容・エステの学校」◇東京マックス美容専門学校「生徒会」◇専修学校「学生自治活動紹介」◇学生主体イベントや地域の祭り参加」◇勤務医東海看護専門学校「学生自治会&サークルブログ」YIC看護福祉専門学校「学生・学科を超えて交流できるように、他んなことを企画」◇関西保育福祉専門学校「楽しいキャンパスライフは私たちに任せよう！」◇那珂看護専門学校「学生会長の記録」◇日本芸術専門学校「在学生によって学生自治組織の学友会を設立」◇中国デザイン専門学校「学友会の活動」◇浜野工芸専門学校「※龍経典（学生自治会員）」東北コンピュータ専門学校「学友会総会が開かれました」



## 学習環境の改善/提案

学生からの目線で、学校の雰囲気改善や、学生主体による勉強会の実施など、学生から学校へ



## 学生間の交流

学科や学年の枠を超えて、交流を計る



## 学生主体のイベント運営

学生主体による、イベント運営、対外的なボランティア活動から、新入生歓迎会や卒業アルバムなど、学生生活を私たちの手で作っていく

**勉強会**

デッサン勉強会や立体造形教室 プログラミング教室など個人ではできない勉強を学生主体で

**環境改善**

学校季節イベント・挨拶・ネームプレート向上や、図書館やフリースペースでの学生目線からの学校への提案など

**学生自治組織**

**各種イベント**

新入生歓迎会や、球技大会、サバイバル大会など学科間の枠を外れたイベントを企画

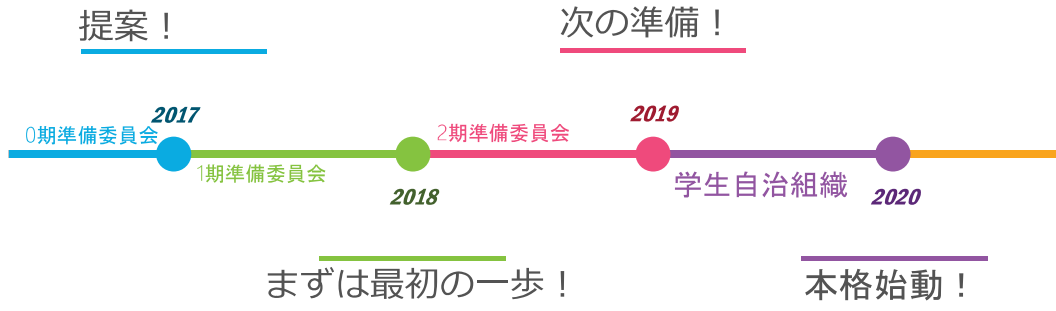
**活動イメージ**

**ボランティア**

様々なボランティア活動を学生主体で提案運営！

# 学生自治組織スタートまでの流れ

Flow to start



## 1期準備委員の募集

1 image and description



学生自治組織を進めるにあたって  
いっしょに活動をしてくれる  
メンバーを募集しています！

- ◇放課後等を使って話し合い
- ◇1期準備委員としてイベントを企画運営
- ◇2期準備委員会設立に向けた会議など

The Power of PowerPoint | thepopp.com

9

28

## 第1期準備委員会に向けて 【説明会】

日時 10月6日 17:00～  
場所 メディアホール

Implementation of the First Phase Preparatory Meeting for  
Student Autonomous Organizations! We are looking for members  
to work hard together

29

# 参加をお待ちしています。

ご清聴ありがとうございました。

...

日本電子専門学校  
第0期 準備委員会メンバー

30

## 2. 教育力向上



### 1) オリジナル教材開発 状況報告

学科	2017年4月	目標	前期の教材作成作業	
			新規作成(中)	既存改訂(中)
ゲーム制作科	71%	88%	3	
ゲーム企画科	38%	38%	1	
ゲーム制作研究科	60%	59%		2
コンピュータグラフィックス科	68%	82%		1
CG・映像制作科	69%	67%		8
コンピュータグラフィックス研究科	38%	33%	1	
アニメーション科	50%	55%	1	
アニメーション研究科	25%	55%	1	
Webデザイン科	67%	60%		7
グラフィックデザイン科	56%	56%	1	
ケータイアプリケーション科	71%	94%		1
情報ビジネスライセンス科	6%	38%	2	
情報処理科	82%	89%		4
情報システム開発科	88%	100%		3
高度情報処理科	40%	50%	1	
ネットワークセキュリティ科	91%	95%		1
高度電気工学科	100%	100%	1	
電気工学科	100%	100%	1	
電気工事技術科	80%	80%		2
電子応用工学科	95%	76%	1	

目標・実習科目中のオリジナル教材率 新規制作(中)は、座学科目も含む  
オリジナル教材は、懇親会場でご覧頂けます。

31

## 2) 目標資格の取得率 状況報告

学科	目標資格	2017年10月までの取得率
ゲーム制作科	情報活用検定3級 /ビジネス能力検定ジョブパス3級	97.7%
ゲーム企画科	情報活用検定3級	81.5%
ゲーム制作研究科	情報デザイン試験初級	90.9%
コンピュータグラフィックス科	ビジネス能力検定ジョブパス3級	72.0%
CG・映像制作科	CGクリエイター検定エキスパート /ビジネス能力検定ジョブパス3級	74.0%
コンピュータグラフィックス研究科	ビジネス能力検定ジョブパス3級	10.5%
アニメーション科	色彩検定3級	12.2%
アニメーション研究科	色彩検定3級	26.9%
Webデザイン科	情報デザイン試験初級/色彩検定3級	96.0%
グラフィックデザイン科	色彩検定3級/アドビ認定アソシエイト /情報デザイン試験初級	95.5%
ケータイアプリケーション科	HTML5プロフェッショナル認定資格/ Oracle Java	48.7%
情報ビジネスライセンス科	Microsoft Office Specialist (Word/Excel)	100.0%
情報処理科	情報活用検定3級	27.0%
情報システム開発科	情報処理技術者能力認定試験2級第1部	72.0%
高度情報処理科	情報活用検定3級	93.0%
ネットワークセキュリティ科	CompTIA A+	22.0%
高度電気工学科	第一・二種電気工事士/第三種電気主任技術者 /エネルギーマネジメントアドバイザー	100.0%
電気工学科	第一・二種電気工事士/第三種電気主任技術者	92.3%
電気工事技術科	第一・二種電気工事士	100.0%
電子応用工学科	第二級陸上特殊無線技士	90.3%

## 3. 第三者評価への対応

### 1) 専修学校の第三者評価の位置づけについて

- (1) 専修学校の第三者評価は法定されていない。
- (2) 大学・短大・高等専門学校・専門職大学院は、認証評価機関による第三者評価が義務づけられている。  
(学校教育法第109条)
- (3) 学校教育法における専修学校の義務規定  
①自己点検・自己評価 ②評価結果の公表 ③設置者への報告  
(学校教育法第42条、第43条、学校教育法施行規則第66条、68条)
- (4) 学校教育法における専修学校の努力義務規定  
①学校関係者評価 ②結果の公表  
(学校教育法施行規則第67条)

## 2) (NPO) 私立専門学校等評価研究機構の 第三者評価について

### (1) 組織

- ①私立専門学校等の「情報公開の促進」と「自己点検・自己評価から第三者評価への取組み」を行うものとして平成16年9月に活動を開始。
- ②平成19年度から「第三者評価事業」を本格的に実施し、私立専門学校等の幅広い参加を呼びかけている。

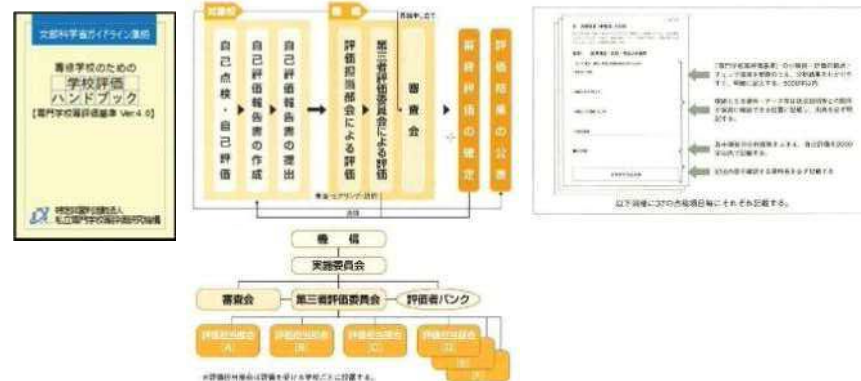


### (2) 第三者評価実績(平成19年度～平成28年度)

37校(うち8校は2度、のべ45校)

### (3) 専門学校等評価基準 Ver.4.0

10大項目、37中項目、65小項目(指標)



### 3) 本校の第三者評価の取り組みについて



#### (1) 過去～今年の取り組み

- ①平成19年度 ②平成24年度 ③平成29年度(今年)

#### (2) 実施体制(全部署分担制)

評価項目	作成担当部署
I 学校の概況	総務部
II 各基準の基本方針ならびに、III 中項目の分析	
1. 教育理念・目的・育成人材像等	校長室
2. 学校運営	総務部、人事部
3. 教育活動	教育部
4. 学修成果	教育部、キャリアセンター
5. 学生支援	総務部、教育部、教務部、キャリアセンター
6. 教育環境	教育部、教務部
7. 学生の募集と受入れ	広報部
8. 財務	財務経理部
9. 法令等の遵守	総務部
10. 社会貢献	総務部
11. 国際交流	教育部、キャリアセンター

### (3) スケジュール

- ①報告書作成 9月4日～9月19日
- ②読み合わせ 9月20日～9月26日
- ③修正・ファイル 9月27日～10月5日
- ④最終チェック 10月6日
- ⑤提出 10月10日

(4) 自己評価報告書: 回覧しますのでご覧ください。

(5) 現地調査の対応

平成30年1月(予定)

(6) 第三者評価修了2017-2021取得

平成30年3月(予定)

## 評価記入シートに記入

## 平成29年度前期 学習成果報告

- ① 情報通信配線技術フォーラム2017  
「情報ネットワーク施工」学生日本一決定戦 3位
- ② 第12回若年者ものづくり競技大会 3位/敢闘賞
- ③ ETロボコン 東京地区大会競技部門 優勝
- ④ NetRiders Asia Pacific and Japan CCNA 日本代表
- ⑤ 第44回技能五輪国際大会 グラフィックデザイン 日本代表
- ⑥ ASIAGRAPH2017 最優秀賞/優秀賞
- ⑦ 第55回技能五輪全国大会出場(栃木県 11/24～11/27)
- ⑧ 東京ゲームショウ 22年連続出展
- ⑨ コミックマーケット 2年連続出展



① 情報通信配線技術フォーラム2017  
「情報ネットワーク施工」学生日本一決定戦

電気工事技術科2年 岸 雅也 【3位入賞】



◇第55回技能五輪全国大会(11月)の出場権を獲得

② 第12回若年者ものづくり競技大会

グラフィックデザイン科2年 湯谷 佳奈子  
グラフィックデザイン部門 【銅賞】



Webデザイン科2年 鈴木 雄太  
ウェブデザイン部門 【敢闘賞】



ネットワークセキュリティ科2年 金子 明日香  
ITネットワークシステム管理部門 【敢闘賞】

情報システム開発科2年 高橋 美子

オフィスソフトウェア・ソリューション部門 【敢闘賞】

③ ETロボコン 2017

『東京地区大会』

情報システム開発科2年 チーム:JEC幻のみっちーず  
競技部門 【優勝】



④ NetRiders

『Asia Pacific and Japan CCNA』

ネットワークセキュリティ科2年 松本 蒼太  
【日本代表としてアジア大会出場】



## ⑤ 第44回技能五輪国際大会

『アラブ首長国連邦・アブダビ大会』

グラフィックデザイン科2017年3月卒 青木 美穂

【グラフィックデザイン部門 日本代表】



44

## ⑥ ASIAGRAPH2017

『学生アニメーション作品公募部門』

アニメーション研究科2017年3月卒チーム【最優秀賞】

アニメーション研究科2017年3月卒チーム【優秀賞】

アニメーション科2017年3月卒チーム【優秀賞】



45

## ⑦ 第55回技能五輪全国大会

『栃木県 11/24～11/27開催』

高度情報処理科1年 小口 遵也

Webデザイン部門【出場】

電気工事技術科2年 岸 雅也

情報ネットワーク施工部門【出場】

ネットワークセキュリティ科2年 栗原 優太

ITネットワークシステム管理部門【出場】



46

## ⑧ 東京ゲームショウ 2017

ゲーム分野の学科が、学生作品を22年連続出展

- ・ 609企業・団体(海外317)が出展
- ・ 総来場者数は、25万4311人



47

## ⑨コミックマーケット92

アニメ分野の学科が、学生作品を2年連続出展

- ・ 出展数は、32,300サークル及び176企業
- ・ 総来場者数は、のべ約50万人



48

## 平成29年度前期 ボランティア報告

平成27年度より、特定の学科への案内だけでなく各担任を通じて学校全体にアナウンスを行い、ボランティア希望者を募っている。

また、参加者には成績証明書など就職活動時企業に提出する書類の活動記録に記載するなど、の支援を行っている。

以上の支援が徐々に浸透し、平成28年度より参加者が大幅に増加している

49

## 平成29年度学生ボランティア活動状況

新宿警察主催ボランティア団体「シャイニングスターズ」の活動

### ■「若き防犯ボランティアの集い」

日程:4月15日(土)13:00~15:00

内容:式典、イベントへの参加

参加者数:38名

### ■「痴漢被害撲滅キャンペーン」

日程:6月5日(金)7:45~8:30

内容:式典への参加、新宿駅西口地下街での防犯チラシ配布活動

参加者数:58名

50

### ■「社会を明るくする運動」

日程:6月25日(日)10:30~12:00

内容:パレード、式典への参加

参加者:45名

### ■「マナーアップ・新宿クリーン作戦」

日 時:10月20日(金)7:20~8:30

内 容:新宿駅東口清掃

申込者:47名

※雨天のため中止

51



6/5 「痴漢被害撲滅キャンペーン」新宿駅にて

## 新宿警察署による表彰

新宿警察署と区内の大学や専門学校との連携で、ボランティアに参加した学生の中から貢献度の高い学生を同署が表彰する制度が作られており、6月12日(月)に新宿警察署にて表彰式が行われた。本校からは昨年同様**15名**が受賞した。



表彰式 6月12日 新宿警察署内講堂にて

## その他の報告事項

意見交換

長時間にわたる  
「学校関係者評価委員会」  
お疲れ様でした。  
引き続き、懇親会を  
2階にて開催します